

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：32623

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22560626

研究課題名（和文） ベトナム・ホイアンの伝統的町並みに対する観光地化の影響

研究課題名（英文） The Impact of Touristy to Historic District in Hoi An, Vietnam

研究代表者

内海 佐和子（UTSUMI SAWAKO）

昭和女子大学・国際文化研究所・研究員

研究者番号：10398711

研究成果の概要（和文）：ベトナムの世界遺産であるホイアンにおいて、①観光地化に伴うファサードの変容実態とその要因を明らかにし、②観光地化が伝統的町家とそこでの生活に与える影響、③町並みの形骸化の実態を明らかにした。また、④観光客に対するアンケートからホイアン観光の魅力客観的に確認した。これらを総合し、ホイアンが今後もサステイナブルな観光地として発展し続けるための方策を行政に提案し、共に検討した。

研究成果の概要（英文）：At Hoi An - the world heritage site of Vietnam, this study has disclosed the following:

Under touristy, ①Changes in the facade of traditional townhouses and its primary factor, ② Impact on traditional townhouses and lifestyle in there, ③ Actual situation of emasculation of townscape, ④ Based on the questionnaires to tourists, objective confirmation of the charm of Hoi An

The total of these, our study team proposed measures to Hoi An will develop as a tourist destination sustainable in the future to the local government, and examined it.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・都市計画・建築計画

キーワード：観光地化・景観変容・町並みの形骸化・リビングヘリテージ・世界遺産・伝統的町並み・町並み保存・ホイアン

1. 研究開始当初の背景

ベトナム中部海岸平野に位置するホイアンは、大航海時代、海のシルクロードの貿易拠点となる港町であった。朱印船貿易時代には、日本人商人も活発な活動を行い、往時には日本人町も形成されるなど、ホイアンは我が国とは縁浅からぬ関係にある。

日本の鎖国後は華僑街として繁栄したものの、船舶の大型化、近隣にあるダナン港の発展などに伴い、ホイアンは衰退し開発から取り残されていった。加えて、ベトナム戦争の戦禍を逃れた幸運も重なり、古い町並みが壊された。

1992年、ベトナム政府および日本の文化庁

の呼びかけにより、昭和女子大学国際文化研究所、千葉大学を中心とした研究チームが組織され、ホイアンの町並み保存調査が開始された。

そして、ホイアン市、住民、日越の研究チームが一体となった町並み保存活動への熱心な取り組みが結実し、ホイアン旧市街は、1999年12月、「古都ホイアン」として世界遺産リストに登録されるに至った。

しかしその後、世界遺産というネームバリューを得たホイアンは、過疎化の進行する鄙びた田舎町から、ベトナム屈指の国際的観光地へと変貌を遂げた。

観光収入の激増によりインフラ整備も進み、観光産業も増加し、町全体が発展した。しかし、世界遺産リスト登録から10年を経たホイアンは、年間観光客数が100万人を超え、経済活動優先による景観条例の有名無実化、業種の観光産業化に伴う景観の変化などの弊害が目立ち始めている。

さらに、2005年に実施した第1回追跡調査において、高賃料が取れる世界遺産エリア内の町家を1棟まるごとテナントとして貸し、元の住民は世界遺産エリアの近郊に現代的な住居を新築し、そこに転居するという現象がみられた。その結果、人が住まない町家が増加し始めていた。これは、町並みの形骸化に留まらず、世界遺産リスト登録の際に評価された、「華僑文化の影響を受けたホイアン特有の文化の伝承」の危機をも招いている。

また、1棟まるごと貸さなくとも、町家の一部をテナント貸ししている事例は非常に多く、店舗併用都市型住居であった本来の住まい方は崩れ、居住環境にも影響を与えている。

このように、激化の一途をたどる観光地化の影響を受けた多方面にわたる変化によって、ホイアン本来の魅力が喪失していくことに対し、ホイアン市と住民は危機感を募らせている。

2. 研究の目的

ホイアンの世界遺産エリアにおける景観変容調査は、94年から2009年まで16年間にわたり継続して実施している。

また、これまでに、94年から世界遺産リスト登録直前の99年までの5年間の、町の観光地化に伴う景観変容の実態と問題点、条例による景観誘導の効果、町家のファサードの改造実態とその問題点については、すでに日本建築学会へ2本の論文（査読付き）を投稿し、ホイアン市への報告も行っている。

しかし、近年の観光地化は著しく、また多方面にわたっており、世界遺産リスト登録前後に起こった観光地化に伴う景観変容とは、事情が大きく異なっている。

そこで、本研究を世界遺産リスト登録10年

を経過したホイアンの追跡調査と位置付け、以下の項目について明らかにする。

(1) 町家の外観について

近年の急激な観光地化に伴うファサードの変容実態とその要因を明らかにする。

(2) 町家の居住空間について

観光業への生業転換に伴う町家の物理的変化、および居住者の生活空間の変化を把握したうえで、観光地化が伝統的町家とそこでの生活に与える影響を明らかにする。

(3) ホイアン固有の魅力について

国内外の観光客に対し、町並みの現状を評価するアンケート調査を行い、ホイアン観光の魅力を客観的観点から再認識する。そして、そこから守るべき観光資源を考える。

そして、最終的には世界遺産リスト登録10年を経て、激しい観光化に直面しているホイアンの世界遺産エリアが、今後もサステナブルな観光地として発展し続けるための観光開発と景観整備の両立を図れる方策をホイアン市に提案し、共に検討する。

3. 研究の方法

ホイアンの観光地化の現状を把握するため、以下の通り多様な切り口の調査を実施する。

(1) 景観の変容実態を把握する調査

これまで16年間行ってきた方法と同様に、世界遺産エリア内にある主要な5本の通りに面した建築物全軒のファサード写真を撮影する。同時に、業種、陳列の様子などの見取り調査も併せて実施する。また、必要に応じて、商店主にインタビューも行う。行政に対しては、景観条例に関するヒアリングを行い、必要に応じて関連条文の入手、内容の整理・把握を行う。

(2) 町家の物理的変化および使用実態を把握する調査

90年代半ばに実施した初期調査および、2005年の第1回追跡調査において採取したデータを資料に、業種が観光産業に変化した町家および、以前より観光産業であっても業種を変更した町家を選出し、家屋実測、住まい方調査を実施する。改造内容に関しては、住民へインタビューを行う。

(3) 観光地化の拡大状況を把握する調査

観光地化の拡大状況を把握することを目的に、ホイアンの全ホテルの開業年、グレード、規模に関するデータを行政から入手する。ホテルの分布については、行政から入手したデータを基に、全軒の実地調査を行う。

(4) 観光産業を把握する調査

ホイアンの観光産業の構造を知る糸口として、90年代後半から急増した観光客向けのテラーショップについて、商店主および従業員に対しシステムに関するインタビューを行う。

(5) 町並み評価アンケート調査

これまでの調査内容を展示するエキシビションを開催し、そこへ来場した国内外の観光客に対し、現在の町並みおよび観光産業について評価するアンケートを行う。必要に応じてインタビューも行う。

また、以上の調査は行政と協働で実施し、調査後にはデータの共有、意見交換を行う。

4. 研究成果

まず、年度ごとに研究の経過をまとめる。

(1) 初年度 (2010 年度)

本研究課題のキックオフとして、2010年8月、ホイアン市においてワークショップを開催した。当該ワークショップではホイアン市長も臨席し、行政の観光および保存の関連部署が、観光政策、景観整備、建造物修復などのこれまでの取組みと現状報告を行った。一方、日本側からは、本研究課題の研究代表者が、2009年にホイアン市と協働で実施した世界遺産エリア内の店舗の営業形態調査の分析をもとにした、近年の景観の乱れと居住者に関する発表を行った。その後、報告などから提起された問題について、ホイアンが今後もリビングヘリテージであり続けるための課題、過度の観光地化への対応、行き詰まりつつある観光産業の方向性、新たな観光産業の創出方法といった現状の課題を協議し、認識の共有を行った。

1994年から継続して行っている世界遺産エリア内の主要な通りに面する全建物のファサード写真を採取する景観変容調査は、2011年3月に実施した。

また、2010年度は、当初計画には含まれていなかった調査2つを追加して実施した。

まず、2010年8月には、観光地化の拡大状況の把握を目的とした、ホイアンの全ホテルの分布調査を実施した。関連して基礎資料として、ホイアンの全ホテルのグレード、開業年、規模といったホテルに関するデータならびに、年間観光客数といった観光に関するデータも入手した。

そして、2011年3月には、観光産業の構造を知る糸口として、90年代後半から急増した観光客向けのテラーショップのシステムを

把握するヒアリング調査を行った。

(2) 2 年度 (2011 年度)

2011年度は、観光地化に伴う町家の物理的変化および、使用実態の変化の把握を目的とした町家実測調査および、居住者に対するインタビュー調査を実施した。2011年8月に、21軒の町家において実施したこの調査は、町家の使い方の変化を検証する第2回追跡調査にあたり、2005年に実施した第1回追跡調査のデータと併せて分析した(図1)。

この結果は、2012年度の日本建築学会大会(名古屋大学・愛知県)および、第9回ISAIA(大韓民国 光州市)において発表し、昭和女子大学紀要・學苑に論文(査読付き)を投稿した。

景観変容調査は、本年度は、2011年8月と2012年3月の2回実施し、例年同様のデータを得た。当初計画では、景観変容調査は毎年8月の年1回の予定であったが、実際には年2回実施することができ、より細かいデータの入手ができた。年2回のデータ入手は、変化の速いホイアンにおいては、大変有用であった。

また、ホイアンの旅行代理店に対するヒアリング調査も実施した。本調査は、当初計画では予定されていなかったが、当事者である住民の視点ではなく、客観的立場から観光客が捉えているホイアンの観光資源の魅力を把握し、観光産業構造およびその展開を知る手掛かりとなった。

(3) 最終年度 (2012 年度)

2012年8月に、国内外の観光客に対するホイアンの魅力の再確認および町並みの現状を評価する目的のアンケート調査を実施した。調査は、ホイアン市の協力を得て借用した世界遺産のコアゾーン内にある町家(グエン・タイ・ホック 46番)を会場に、ホイアンの町並み保存活動の歴史、およびこれまでの研究をまとめた観光地化の現状をパネルによって紹介するエキシビションを開催し、その展示を見終わった観光客に対しアンケートを実施した。

この調査の結果は、2013年度の日本建築学会大会(北海道大学・北海道)において発表することが既に決まっている。

景観変容調査は、昨年度同様、2012年8月と2013年3月の2回実施し、例年同様のデータを得た。昨年の結果を踏まえ、より細かいデータの入手を目的に年2回の実施とした。

最終年度の年度末である2013年3月には、ホイアン市のみならず、その上部組織であるクアンナム省も含めた関連行政官および住民代表も参加する100人規模のクロージング・ワ

事例地	初回調査・1993～1996年	第1回追跡調査・2005年3月	第2回追跡調査・2011年8月	
No.1	1階			
	2階			
No.2	1階			
No.3	1階			
	2階			
No.4	1階			
	2階			
No.5	1階			
	2階	-	-	
No.6	1階			
No.7	1階			
No.8	1階			
	2階			
No.9	1階			
	2階			
	3階	-		
No.10	1階	調査不可	調査不可	
	2階	調査不可	調査不可	
No.11	1階		非調査対象	
	2階	-	非調査対象	
No.12	1階			
	2階	-		
No.13	1階	非調査対象	非調査対象	
	2階	非調査対象	非調査対象	
No.14	1階			
	2階			
No.15	1階			
	2階			
No.16	1階			
	2階			
No.17	1階			調査不可
	2階			調査不可
No.18	1階			
	2階			
No.19	1階			
	2階			
No.20	1階			
	2階			
No.21	1階			
	2階			

凡例 T:観光客向け店舗 S:住民向け店舗 P:居室 W:水回り G:中庭・後ろ庭

図1 町家の空間構成および住まい方の変化

ークショップをホイアン市主催により開催した。ここでは、本研究課題による全調査の報告を行ったうえで、観光地としてのサステイナブルな発展を図る方策をホイアン市に提案し、討論を行った。

次に、成果をまとめる。

(1) 町家の外観と景観

なかには煉瓦造の町家の外壁に木製の板を貼りつけたフェイクもあり、町並みの中で浮いた存在になっているものの、ホイアン市の主導により、町家の修景および修復が全体的に進んでいた。一方、観光地化の激化に伴い、外部から流入してきた人々による経済活動が活発になっており、土産物が本来の観光資源である町家を隠し、目立っている事例が多くみられた。以上から、近年の景観の乱れは、町家の外観の変化ではなく、土産物の量および陳列方法に原因があることがわかった。

行政へのヒアリングにより、景観に関する新たな条例は施行されていないことも確認できた。

(2) 町家の空間構成

町家においては、後ろ庭を除く伝統的空間構成が維持されていることが確認できた。後ろ庭は、本来、家畜小屋や台所、トイレなどの水回りを配する空間であった。しかし、産業の変化によって家畜小屋は不要となり、設備および生活の近代化に伴い、水回りは住居内部に取り込まれていった。その結果、後ろ庭は増築用地となり消滅していった。これは、住民が伝統的空間構成のなかにも、維持すべき空間とそうではない空間を認識していることに起因している。

一方、観光客受けを優先し、安易に伝統的空間の要素を取り入れる事例もみられた。これらフェイクは、薄っぺらな印象を与え景観に違和感を与えている。

(3) 町家の居住環境と町並みの形骸化

町家の観光産業利用の進行により、調査を重ねるごとに観光産業のための空間が拡大し、生活空間を圧迫していること、町家を観光産業に用いるために、1軒全体を店舗とする、居住者のいない町家が増加していることを把握できた。町家は観光資産であると同時に伝統的生活文化を継承していく住民の住居でもある。リビングヘリテージとして、サステイナブルな観光地となるためには、世界遺産リスト登録時に評価されたホイアン特有の生活文化の継承が必須である。住民各々に思惑があるとはいえ、居住者のいない町家の増加は、町並みの形骸化を促進し、世界遺産としての価値を喪失する危険性を孕んでいる。

(4) ホイアン観光の魅力

観光客はホイアンの魅力を世界遺産の町並みだけでは捉えておらず、周辺部も含んだホイアンならではの多様な観光資源にも期待をしていることが把握できた。しかし現実には、著しい観光地化により町は賑やかさを増し、一方では、地元住民の減少により生活文化が感じられにくくなっており、その結果、観光客が有するホイアンのイメージおよび期待と現実との間にギャップが生じていた。

また、ホイアン観光への期待に、「もっとローカルな生活」といった類の意見があったが、現状は、「テーマパーク」、「映画のセット」と評されるように、生活感の希薄さ、すなわち、これまでの研究において、何度も指摘してきた町並みの形骸化の進行を観光客も感じ取っていることも明らかにすることができた。

(5) クロージング・ワークショップ

ホイアンがサステイナブルな観光地としての発展を継続するために、これまでの調査を踏まえ、日本側から以下の提案を行った。

- ① 歴史地区の範囲を明確にする
- ② モータリゼーションへの対応準備をする
- ③ 歴史地区を人の住める場所にする
- ④ 歴史地区内のコミュニティサービス施設を維持する
- ⑤ 現代生活に対して古い町家を適応させる
- ⑥ 地元の職人やクリエイターによる地域に根ざした商品をプロモートする
- ⑦ 1棟貸しの町家ホテルを造る

ディスカッションでは、ホイアン側は、現在販売されている土産物の大半が中国製であることに對し、強い不満を持っており、特に⑥に対する討論が活発に行われた。

当初計画はもちろんのこと、適宜、調査を追加したことにより、研究内容に厚みをもたせることができた。

また、これまでの研究内容や採取したデータを論文や学会発表だけではなく、2012年開催のエキシビジョンおよび、2013年開催のクロージング・ワークショップにおいて公表する機会を得、当研究課題の内容および成果を研究者に留まらない、多岐にわたる人々に広く発信することができた。

本研究課題で行った手法は、今後、他のアジアの歴史的町並みの保存と観光活用に関する研究においても、応用可能なのではないかと考える。そして、5年後、10年後のホイアンにおいても、第3次追跡調査として実施し、本研究課題のその後を検証すべきと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① UTSUMI Sawako, "The impact of tourism development on the residential spaces in traditional town houses - Hoi An Ancient Town, a World Heritage in Vietnam", 9th International Symposium on Architectural Interchange in Asia Proceedings A-14-1, <http://isaia2012.aik.or.kr>, 査読有、2012年
- ② 内海佐和子, 「観光地化が伝統的町家の居住空間へおよぼす影響 ベトナムの世界遺産・古都ホイアンの場合」 昭和女子大学紀要 學苑総合教育センター・国際学科特集第859号、査読有、2012年、63～77頁
- ③ 内海佐和子, 「店舗の経営形態の相違が町並みへおよぼす影響 ベトナムの世界遺産・古都ホイアンの場合」、昭和女子大学紀要 學苑総合教育センター・国際学科特集第847号、査読有、2011年、38～47頁
- ④ 内海佐和子, 「活動報告 ホイアン旧市街における店舗・景観改善ワークショップ」、昭和女子大学国際文化研究所紀要第14号、査読無、2011年、219～225頁

[学会発表] (計10件)

- ① 内海佐和子、福川裕一, 「観光客アンケートからみた世界遺産・古都ホイアンの現状と課題 ベトナム・ホイアンの町並み保存に関する調査研究その16」、日本建築学会大会学術講演梗概集2013都市計画、2013年8月(梗概採用済、発表確定)、北海道大学(北海道)
- ② UTSUMI Sawako, "Reports of The Three Years Project", Meeting on Conserving and Promoting Hoi An Ancient Town 2013、2013年3月27日、ベトナム社会主義共和国ホイアン
- ③ FUKUKAWA Yuichi, "Towards Sustainable Tourism: Japan's Challenges & the Implications to Hoi An", Meeting on Conserving and Promoting Hoi An Ancient Town 2013、2013年3月27日、ベトナム社会主義共和国ホイアン
- ④ UTSUMI Sawako, "Preservation and Tourism in Hoi An", Workshop in Nias 2012、2012年12月28日、インドネシア共和国パウォマタルオ村
- ⑤ UTSUMI Sawako, "Lecture on conservation of Vietnamese case study, "Hoi An Ancient Town", Workshop in Kotagede 2012、2012年10月30日、インドネシア共和国プランバナン
- ⑥ UTSUMI Sawako, "Conservation and Good Use of Historic District, In The Case of Hoi An, Vietnam - The Impact of the World Heritage, "Workshop on

Revitalization based on Community Based Development in Kotagede, Indonesia, 2012年9月6日、インドネシア共和国コタグデ

⑦ UTSUMI Sawako, “The impact of tourism development on the residential spaces in traditional town houses - Hoi An Ancient Town, a World Heritage in Vietnam”, 9th International Symposium on Architectural Interchange in Asia, 2012年10月24日、大韓民国光州

⑧ 内海佐和子、「観光地化が伝統的町家の居住空間へおよぼす影響 ベトナム・ホイアン町並み保存に関する調査研究その15」、日本建築学会大会学術講演梗概集 2012 都市計画、2012年9月12日、名古屋大学（愛知県）

⑨ 内海佐和子、「店舗の経営形態の相違が町並みへおよぼす影響 ベトナム・ホイアン町並み保存に関する調査研究その14」、日本建築学会大会学術講演梗概集 2011 都市計画、2011年8月25日、早稲田大学（東京都）

⑩ 内海佐和子、「店舗の経営形態の相違が町並み景観に及ぼす影響・世界遺産ホイアン旧市街の場合」、文化遺産と観光マネジメント・ワークショップ、2010年8月12日、ベトナム社会主義共和国ホイアン

〔図書〕（計1件）

① 内海佐和子他、日本建築学会編、風響社、『フィールドに出かけよう！住まいと暮らしのフィールドワーク』、2012年3月、全244頁、担当章：「第6章 町並み保存国際協力チームに参加する ベトナム・ホイアンの町並み保存」87～102頁、「技術編5 フィールドでのエチケット」220～223頁、「あとがき」239頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

内海 佐和子 (UTSUMI SAWAKO)
昭和女子大学・国際文化研究所・研究員
研究者番号：10398711

(2) 研究分担者

福川 裕一 (FUKUKAWA YUICH)
千葉大学・大学院工学研究科・教授
研究者番号：60130829

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

なし